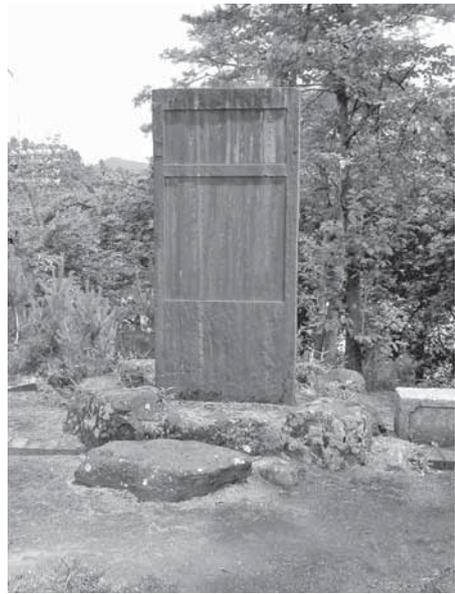


C-59 (樫鳥会句碑)



冬空の 思ひに 来たり そばの花 青々
 花曇深く 十方世界かな 素史

春浅き懐紙に残る茶のぬくみ 恵 真
 おぶさつてみたき野に出づ猫柳 菊 枝
 興亡を知るによしなし花の陰 修 竹
 鬼薊触れて驚く野の神秘 青 石
 むせ返る音なき梅雨の音に耐え 瑞 雲
 女郎花壺に野のさまうつり来る はな 恵
 葉ずれより空動きけり竹の春 は ま
 庭草に草紅葉あり残りしけり な か
 すすかけの落葉のそりが風による 光 重
 山に来て雪に笹鳴聞く日かな 咲 子
 吹雪く夜の海乃三国ハ蟹の宿 豊 月
 白山を引き離したる寒の月 雪 峰
 (裏)

勝山市制十周年記念

昭和三十九年秋 樫鳥會

昭和三十九年…一九六四年。

C-60 (なでしこ塚)



酔うて寝ん

なでしこ咲ける

石のうへ

芭蕉翁

(側面)

先此塚の草創は寛政十一年乃春 城主小笠原孤
 松臺君廼尊名を蒙り松村巴文か俳信より建築な

りしを明治廿八年の四月勝山下以祝融農の災に御
 塚も破壊及ひし越歎きて三社合信し再築調ひし
 歎喜乃趣旨乎後の亀鑑に銘したりしもの也

(裏)

明治三十一年

五月廿二日

文章は碑文通りの配列になっていない。
 寛政十一年…一七九九年。小笠原孤松…小笠原長
 貴。巴文…板甚の先祖。明治廿八年…一八九六年。
 二十八年は誤りで二十九年。祝融…しゆくゆう。
 火事。亀鑑…きかん。模範。

C-61 (帰雲坊碑)



明残る星の光りや秋の空 八十叟帰雲坊

C-62 (明覚寺句碑)



名号の碑や鬼百合も うつむかせ 六十六翁 常我坊
うら枯ぬ 弘誓の船の 渡しかな 藤越
うたかひの 有明や世の 晴所 可應

C-63 (開善寺句碑)



よなきいし 今や
迷の雲はれん
真如の月乃
てらすひろには

大正五辰十月

三国 国森

大正五辰…一九一六年。

C-64 御大典記念



神燈

昭和三年建之

外地青年會

御大典記念

工作人

初鹿野石材

(店)

昭和三年…一九二八年。

C | 65 御大典記念



奉献(2基)

御大典記念

昭和三年五月

大阪市天王寺大道

五十嵐喜作

建之

岡崎市

石工 成瀬 大吉

昭和三年…一九二八年。

C | 66 御大典記念



御大典記念 昭和三年拾月建設

奉納 勝山町 松村 宇市

岡崎市

石匠 成瀬 大吉

昭和三年…一九二八年。

C | 67 神馬



神馬

略歴

昭和十年六月勝山町上杉周次郎氏の懇志により
奉献せられし御神馬は大東亜戦争に応召し
岩石のみ残りしを此度氏子中の奉賛を得て
永遠の平和を祈りここに再建す

昭和四十八年十月吉日

神明神社 宮司

賛助者

世話人氏子総代

土屋市太郎

浅見 瀬治

天立 満

上杉 博

鳥山 久徳

鳥山新之丞

飯田佐太郎	前田 清
大谷 薫泉	松村 進
奥村 正	茂呂 忠一
勝浦 義雄	山岸吉太郎
梶縄 富弥	鷺田 慶蔵
北山 助市	山内 鉄造
北川喜代治	筒井 経廣
杉田 喜市	松井 與市
竹内 長吉	山内 松治
谷口六兵衛	笠松 與一
土屋喜兵衛	堀江 覚
松浦 吉雄	

御神馬製作 富山県高岡市問屋町
 一ノ瀬美術銅器製作所
 一ノ瀬 宗長 謹作
 奉納 昭和十年六月
 勝山町 上杉周次郎
 岡崎市石工 成瀬 大吉

昭和十年…一九三五年。

C-68 (蓮如上人五百回忌法要記念)



蓮如上人五百回忌法要 記念
 本堂平成年間修復
 (側面)

一四四九年(宝徳元年)蓮如上人
 三十五歳北陸地方御教化之御影
 二〇〇〇年(平成十二年)五月
 有限会社道上石材工業

C-69 蓮如上人遺蹟



北国見還之尊影
 蓮如上人遺蹟 直弟光照坊
 (裏)

明治八年乙亥六月
 (側面)
 十七世

釋性信
 明治八年…一八七五年。

C-70 聖徳太子之塔



聖徳太子之塔

(側面)

堂宇旧築之地跡

(側面)

時賜賜性海慈船禪師永平悟由敬 書

(裏)

明治三十五年五月

太子講建之

(側面)

奉修一千三百回忌記念

明治三十五年…一九〇二年。

C-71 (勝山太子堂由来碑)



勝山太子堂

太子堂の由来は、寛政の頃勝山町沢の大工棟梁伊藤宗右衛門氏が浄願寺を建立中、夢のお告げに「太子像が京都 六条の古物商にあるので迎えて祀ってほしい」とあり、さっそくこれをお迎えて祀ったものであるという。現在安置される右手に柄香炉を持つ聖徳太子像とこれを守護する持国天。広目天増長天、多聞天の四天王像である。

聖徳太子は西暦五九三年、推古天皇の摂政として、冠位十二階、十七条憲法をつくり、また遣隋使を派遣して制度文物を導入し、特に建築や

仏像製作等の技術を取り入れ、仏教興隆に力を尽くし、法隆寺や四天王寺を建立したことで知られる。

太子は没後も篤く崇敬され、平安中期には仏教各派の共通の祖として、江戸期には工人の元祖として大工や建築職人などにも信仰されるようになった勝山太子堂は、明治二十九年の勝山大火の際には、旧城址にあって焼失を免れたが、その後開善寺境内に移された。ところが三・八豪雪で本堂が破損(損)した為、現在の長山十番地に移転建築されたのは昭和三十九年五月であるこの聖徳太子を奉賛する太子講は現在まで連綿と存続され、毎年春の祭礼が盛大に行われている。

(裏)

寄贈

勝山建築業組合創立50周年記念

平成20年3月建立

注 昭和三十九年は誤りで、四十年(一九六五)。



C-73
（五千部成就碑）

経塚一切合識 ■ 普益 ■



C-72
（閻魔堂経塚）



石敢当

C-74
石敢当

寛延元年…一七四八年。

寛延元年戊辰九月

（側面）

糸屋仁右衛門

（裏）

品量山大蓮寺

泰唱玄名五千部成就檀中

願主圓行院法修日清

（側面）

南無妙法蓮華經 法界



C-76
三界万霊（左）



C-75
法界萬霊（中）

中

南無妙法蓮華經 南无日蓮大菩薩 法界萬靈

左

来 奉書大乘妙典一絶一石一字

南無妙法蓮華經 三界萬靈

持正藤林山大蓮寺 芳檢院日喜敬

元禄十五壬午年閏八月

(参考)

右

享和三亥三月大良日

十七世日領代

南無妙法蓮華經

元禄十五年…一七〇二年。享和三年…一八〇三年。

C-77 三界萬靈



竊 僧 三界萬靈

為 寶 風火水地

無 佛 真妙善大姉

空 相 宗徹居士

C-78 三界萬靈



三界萬靈

(裏)

昭和四十六年十月三十日

三十五世 幸昭代

(参考)

靈等

久岩代

久岩尊長

大和尚

昭和四十六年…一九七一年。

C-79 三界萬靈



施主 梅田治右衛門
笠松五郎右衛門

三界萬靈

中村吉右衛門
此ナリト

(右側)

元甲子三月 日

(左側)

当寺六代紅旭和尚

元甲子は文化元年…一八〇四年。

C-80 三界萬靈



三界萬靈

(裏)

平成十年五月 再建立

順空昭文代

C-81 三界萬靈等



三界萬靈等

(裏)

二淨月宗珊上坐 光岸正圓信女
一義栄権少僧都 四 秀岳宗栄上坐
三心應自清居士 松峯妙壽大姉
大正十三年

大正十三年…一九二四年。

C-82 天明・天保飢饉供養碑



(天明)

南無阿弥陀佛

(天保)

天保八丁酉年

南無阿弥陀佛

為無縁死亡男女二百念九人

天保八丁酉年…一八三七年。



天明飢饉供養碑

天保飢饉供養碑

方今文化ノ發達ト社會事業ノ進展ニ伴ヒ吾人ハ鼓腹擊壤ノ順境ニ住スト雖モ吾人ノ祖先ニハ悲惨ノ逆境ニ遭遇サレシ方モアリシナラン、今ヲ距ル百五十年天明年中及九十年前天保年中凶作相踵キ食料欸乏シ樹根ヲ掘リ艸葉ヲ摘ムモ尚足ラズ剩ヘ鎖國ノ餘弊交通機關ハ備ハラズ四隣互ニ救恤ノ途ナク餓孚衢ニ横ハリ鍋釜ヲ賣リテ一碗ノ粥

ヲ買ヒ一ノ山地ヲ以テ焼餅三個ニ代ヘタリトトク口碑アリ以テ當時悲慘ノ状態ヲ偲ブベク今碑石ノ刻字ニ據レバ餓死者二百二十九人ヲ此地ニ埋葬シ時ノ慈善家此悲運ノ亡靈ヲ吊慰センタメ供養碑ヲ建設セリト

爾來年月ノ推移ト共ニ荒廢ニ傾キ將ニ堙滅ニ歸セントス吾人之ヲ座視スルニ忍ヒズ仍テ慈善家ノ淨財ヲ仰ギ碑石ヲ復興シ往時ノ亡靈ヲ吊慰スルト共ニ後昆ヲシテ温故知新ノ資料ニ供スト爾云

大正十五年三月復興

長谷川傳藏撰

松田現昭謹書

(裏)

發起并世話人

- | | |
|-------|-------|
| 太田 喜市 | 柳原藤左門 |
| 屋敷 吉蔵 | 柳原助五郎 |
| 初鹿 留吉 | 平泉 岩吉 |
| 西野 末松 | |
| 請負人 | |
| 竹内 継太 | 松原 弥吉 |
| 但川 政治 | |

鼓腹擊壤…こふくげきじょう。太平を樂しむさま。踵キ…つづき。歛…欠。艸…くさ。草。剩へ…あ



まつさえ。そればかりか。救恤…きゆうじゆつ。貧乏人・罹災者などを救い恵むこと。餓孚…がひょう。飢え死にした人。衢…みち。吊慰…ちようい。弔慰。死者を弔い遺族を慰めること。堙滅…いんめつ。かくれて見えないこと。大正十五年…一九二六年。

【解説】

天明・天保の飢饉供養碑が年月の経過とともに湮滅に瀕している。そのため墓誌復興碑を建てこれを後世に残すと記す。長谷川傳藏らを中心に建碑された。

供養碑移転記念

この供養碑は天明天保の大飢饉による悲運の亡霊を供養するため大正十五年三月芳野町二丁目二の一番地先に建立されたものであるが勝山都市計画北部第二工区土地区画整理事業施行により昭和四十三年十月この地に移転したものでこの土地区画整理事業完成と共にここに記念するものである。

昭和四十八年三月

(裏)

勝山都市計画北部第二

工区土地区画整理事業

施行者

勝山市長 高野 春三

委員 白野齊次郎

同 西内 政治

同 古川 正一

同 婦山長右工門

同 玉木 護

同 横川平三郎

同 今庄 武雄

同 飯島治太郎

同 松原 松藏

同 和田利右工門

大正十五年…一九二六年。昭和四十三年…一九六八年。

C-85 四国西国参拝供養塚



奉修 四国西国参拝供養塚

(右)

奉 四国八十八箇所

西国三十三所 御本尊及霊場土ヲ納

(左)

釋淨泉信士 俗名三ツ井伊作 安田初

釋妙盛信女 同大丸弥次右工門

同大丸弥三郎 安田弥市

當庵中興九世翫誉華叢誓林比丘尼

(裏)

于時明治三十四年三月建立之

越前国大野郡猪野瀬村大字畔川

安田市之助 妻ちか

明治三十四年…一九〇一年。

C-86 (帰国記念碑)



帰国記念

朝鮮民主々義人民共和国

朝日親善萬歳

在日本朝鮮人勝山帰国者集團

一九六〇年四月建設

表8 村岡地区石碑一覧

記号	番号	名称	分類	場所
D	1	故陸軍歩兵伍長青木喜作碑	人物	暮見トンネル出口
D	2	故村岡消防組頭高野藤一碑	人物	寺尾
D	3	山内一郎先生像	人物	滝波バイパス沿い
D	4	故天池五三郎之碑	人物	栃神谷
D	5	村岡廟	忠魂	村岡神社境内
D	6	忠魂碑	忠魂	村岡山山頂
D	7	竣工記念碑	一般	滝波バイパス沿い
D	8	記念碑	一般	五本寺
D	9	牛首道?改修記念碑	一般	寺尾
D	10	(村岡校道竣工記念碑)	一般	村岡小学校
D	11	記念碑	一般	滝波白山神社境内
D	12	白山神社と黒原村	一般	黒原白山神社境内
D	13	(村岡城碑)	一般	村岡山山頂
D	14	四国八十八ヶ所登り口	一般	村岡山登り口
D	15	御大典記念	一般	浄土寺水上神社境内
D	16	御大典記念	一般	滝波白山神社境内
D	17	皇紀二千六百年	一般	滝波白山神社境内
D	18	明治三十七八年戦役記念	一般	浄土寺水上神社境内
D	19	蓮如上人御掛錫	一般	黒原
D	20	(弘法大師碑)	一般	村岡山山頂
D	21	清邪碑	一般	浄土寺
D	22	(七人塚)	一般	浄土寺たらたら山付近
D	23	(北若連中寄進碑)	一般	郡墓地
D	24	(松村氏之墓)	一般	滝波白山神社境内
D	25	蓮如御掛錫「蓮如さん腰掛石」	エコ町	村岡町黒原
D	26	村岡山城跡	エコ町	村岡山登り口
D	27	村岡山城跡	エコ町	村岡山頂

4節 村岡地区

地区内には人物碑4、忠魂碑2、一般碑18の計24基の碑が建てられている(表8参照)。碑は地区内に広く分布しているが特徴的な碑を2つあげると、元禄四年(一六九二)の銘があり通称「七人塚」と呼ばれる碑は、山町と奥山の利益をめぐる郡村など4村が対立、その犠牲者を顕彰するたため建てられた。「牛首衝改修記念碑」は古来より経済的な結びつきの強かった勝山と牛首、悲願であった両地区間の道路の改修を記念して建てられたものである。その他、仮称「松村氏之墓」には初代妙正の寛永元年(一六二四)以降、歴代の戒名・没年が記され歌も詠まれていて特異な碑である。エコ関係碑は3基である。

D11 故陸軍歩兵青木喜作碑



姓青木名喜作明治九年三月生性温厚年十六懷望遊東京同三十年入營鯖江三十六聯隊忽進上等兵同三十三年得善行證書而為除隊再東上居前後七年偶日露之役起也官召集豫備兵同三十七年七月十七日應召從于糺野軍同八月十一日搭船赴役于清国盛京省女東縣受命守城十月從鴨綠江軍轉戰各地屢有殊功昇進伍長地塔之役我軍追敵抵障堂南方之高地戰最期君奮闘挺進敵彈貫頭遂為名譽之戰死實明治三十八年二月二十八日也佛名曰釋勸勇信士官賞其功叙勲七等功七級賜金鷄勲章及青色桐葉章茲兄弟相謀建碑以傳功不朽爾云

清山卷石 謹撰并書

【解説】

青木喜作は明治九年(一八七六)栃神谷村に生まれ同三十年鯖江三十六連隊に入営。一旦除隊後、同三十七年の日露戦争に出征し翌年名譽の戦死を遂げた。

D12 故村岡消防組頭高野藤一碑



故村岡消防組頭高野藤一碑

君福井縣大野郡村岡村浄土寺人以安政元年三月六日
 生明治廿二年七月舉村岡村會議員同年十二月舉浄土
 寺區長廿八年四月再舉村岡村會議員三十一年十一月
 為村岡消防組頭日夜厲精有功矣三十五年六月十九日
 以病歿有志謀樹碑傳不朽

明治三十八年十月 勝 山 西脇 静書

本多彌太郎 上出 甚一

笠川 繼孝 上山忠右エ門

笠川嘉次馬 山田安兵エ

黒田 傳作 松原五郎兵衛

水元 権吉 宮本三之丞

石畝 和作 高野文四郎

石畝 五作 高野 久馬

石畝平右エ門 高野 生駒

池田與太郎 高野久太郎

本多弥五右エ門 竹内太次兵衛

田中治郎右エ門 宮本三左エ門

中村 清蔵 池田 岩吉

中村仁右エ門 丸山市太郎

本多 忠彰 中村三之輔

植田辰次郎

発起人

村岡消防組頭

中村彦太郎

第壹部小頭

笠川宇右エ門

第貳部小頭

山端 喜平

島田 嘉市

森口 善吉

【解説】

高野藤一は安政元年（一八五四）に浄土寺村に生まれ、村岡村村會議員や浄土寺区長などを勤めた。明治三十一年（一八九八）に村岡消防組頭となり五年にわたり職務に精励した。碑はその功績を讃えたものである。同三十五年没。



山内一郎先生像

山内一郎先生は、大正二年（一九一三年）二月十五日内務省土木技師山内喜之助、（氏は勝山市荒土町細野に生まれ、東京帝国大学工学部土木科卒業、工学博士）小奈加夫妻の長男として、東京麹町に生まれた。

先生は、昭和十一年東京帝国大学土木工学科を卒業後、直ちに父の衣鉢を継ぎ内務省に入省土木技師として主に河川関係一筋に戦前、戦後の激動期を国土づくりに邁進された。この間、建設省河川局防災課長、大臣官房技術参事官、河川局長、建設技監を歴任、昭和三十八年十月には建設省事務次官に就任されるなど、国土の発展に尽くされた功績は偉大である。

昭和四十年七月、官界を去り、第七回参議院通常選挙の全国区に初当選され、参議院議員として政治家の第一歩を踏み出された。昭和五十二年の選挙では、故郷の福井地方区から当選、四期二十四年間郷土福井県はもとより国政の発展に貢献された。

国会では、建設委員会理事をはじめ、国土庁初代政務次官、参議院予算委員長などの要職を務められた。その後、昭和五十五年の鈴木内閣で郵政

大臣に就任、郵便年金の創設など郵政史にもその名を残された。また、昭和五十八年、ロッキード事件丸紅ルート公判判決による政界汚職を正す参議院政治倫理協議会座長として活躍された。

先生は、常に「豊かで強靱な国土づくり」を持論に、卓越した識見と豊富な経験をもって、実に半世紀にわたり河川・土木行政に情熱をそそぎ、数々の業績を残された。昭和五十九年春「多年にわたり国会議員としての重責を果すと共に、郵政大臣として国政の枢機に参画した」ことにより叙勲の榮に浴し、勲一等瑞宝章を授与された。

この度、江湖にその功績を讃えるべく、各界各層の有志が相集い、ここに山内一郎先生の像を建立できたことは、福井県民はもとより勝山市民並びに関係者の大きな喜びである。

平成六年四月吉日

山内一郎顕彰会

会長 今井三右衛門

昭和十一年：一九三六年。衣鉢：いはつ。事業業績などを受け継ぐこと。邁進：まいしん。勇みたつてひたすら進むこと。強靱：きょうじん。しなやかで強いこと。卓越：たくえつ。はるかにひいでていること。枢機：すうき。要。江湖：こうこ。世間。讃え：たたえ。

【解説】

大正二年（一九一三）に生まれ平成十七年（二〇〇五）没。勝山市出身で五期にわたり参議院議員をつとめ、この間郵政大臣として活躍した。

D14 故天池五三郎之碑



陸軍歩兵一等卒勲八等

白色桐葉章

故天池五三郎之碑

明治三十七年二月腥風一怒黃海之灘陰雲愈掩滿
韓之空哉第九師團第一動員接発令同年五月十六日
糺野之應召於兵營從王師遠超萬里之波濤激戰奮
關益進而清国盛京省参加竜眼北方角面堡之於大攻撃
受頭部銃創而同年九月十九日遂名譽之戰死矣

教学参議部出仕 村岡普撰書

(裏)

明治三拾九年 九子揃候

天池五兵衛

积順智 俗名五兵衛

积尼智証俗名以幾

积懐道 俗名五三郎

【解説】

天池五三郎は栃神谷村に生まれ明治三十七年（一九〇四）の日露戦争に出征した。同年清国盛京省竜眼北方の戦闘で名譽の戦死を遂げた。

D15 村岡廟



村岡廟

(裏)

昭和二十八年七月建之

世話人

西野 武雄

本田 清

門善 太郎

竹内 吉孝

野村 斉

山口 松蔵

山本 有雄

高野 彰 藤川 進
 高野 久 藤澤又兵衛
 竹内 武重 藤澤作右エ門
 但川治兵衛 斎藤 正雄
 竜田 仁作 下牧 定夫

(側面)

大東亜戦争ヲ中心トスル百十余柱ノ殉国ノ英霊ヲ祀ル
 ソノ忠烈ヲ追慕スル村民一同ノ至誠擬ル所ナリ

昭和二十八年五月

平泉澄謹記

(側面)

昭和廿拾年十月吉日

土地寄附者名

多田治右エ門 竹内徳太夫
 小寺 五作 佐々木惣吉
 竹内吉五郎

昭和二十八年…一九五三年。殉国…しゅんこく。国のために命を投げ出す。忠烈…ちゆうれつ。きわめて忠義なこと。至誠…しせい。まごころ。擬ル…はかる。おしはかる。

D16 忠魂碑



(帝国在郷軍人会村岡分会会員名列碑)



忠魂碑

元帥陸軍大將子爵川村景明書

帝国在郷軍人会村岡分会会員名列

評議員

敷地寄附 平澤善三郎 門 藤作
 篤志者 竜田 嘉吉 竹内小太郎

北川惣兵衛 只川 伊八
 義野 八助 只川 伊蔵
 佐々木惣五郎 中舎末太郎
 笠川雄太郎 松本与三郎
 松原嘉太郎 中村 元吉

顧問

松原嘉次馬

長谷川五(右)工門

藤沢又兵衛

齋門 金■

(罫)井末太郎

小寺 金作

竹内吉五郎

山本安太郎

北川 為吉

駒 光藏

分会長

桜町 藤市

花田 金作

多田治右工門

藤沢 松(雄)

副会長

(罫)口 直正

前川弥太郎

北川 末藏

今井 三郎

山場 房吉

水谷 勇吉

木下 末吉

長谷川庄右工門

太田 喜市

高橋 竹松

中村(伊)太郎

梨木甚之助

竹内 太藏

平澤文四郎

中村 ■■

石畝 西生

原田 長松

本多栄次郎

中村 弥吉

花田 義明

池田与右工門

内藤仁太夫

林 松造

中村清一郎

平澤善兵衛

佐々木五太郎

小林 捨吉

中村仁太郎

佐々木惣吉

松村 (伊)松

松原 末松

木下茂太郎

北川 ■一

山本 作助

坂下 桂藏

■■田栄太郎

西野 貞治

前田 静

水谷丈之助

多田 太七

前川弥三郎

廣 栄次郎

宮本三之助

山川 佐市

中村治太郎

中村 伊助

松崎庄次郎

鎌田 留藏

植田 作馬

木下 太市

齋門 秀吉

前田与太郎

中野福太郎

小寺 七藏

(梨)木 与市

西野小三郎

山岸忠太郎

梨木 利吉

久保 小八

下牧八十八

正会員

中村 秀一

石畝 一

中村 弘

中村 弥一

門 喜太郎

下村 弥吉

竹内 駒

中村 清吉

岩泉 仁作

上出甚太郎

多田太(伊)藏

森口善右工門

田中 茂

黒田 梅吉

下村 弥作

木下木之助

龍田平太郎

前川 弥(之)

前田 (茂)雄

中村伊太郎

藤沢利兵工

多田治太郎

五十嵐喜代太

谷口 長藏

廣瀬喜代一

和田 久松

田中鏡太郎

片山仁太郎

竹内 吉藏

但川 政治

平澤一三五

天池二三丸

前川元三郎

酒井久一郎

藤沢 作雄

松原栄太郎

宮本由太郎

中村 三松

木下権之永

山口 市松

山岸 吉直

平野 勇吉

小川 秀(雄)

和田甚太郎

山岸 武雄

山口与太郎

中村 長一

前田 久(確)

山口 佐吉

小寺 金七

中村 清一

前田 源作

笠川 五作

門 初吉

門治 太郎

前田五太郎

島田政次郎

前野 初男

山内 甚松

木下平太郎

廣田 與一

前田 五郎

竹内 継太

青木 彦繁

桜町五太郎

中村弥太郎

多田 桂藏

松原 嘉作

岸上 伊作

小川仙太郎

前川弥三郎

中村治太郎

酒井京吉

石工

川村景明…薩摩出身の陸軍軍人。元帥陸軍大将。

建碑工事担当者



勝山市滝波土地区画整理組合事業

竣功記念碑

参議院議員 山内 一郎

碑文

当滝波土地区画整理組合事業の区域は滝波、郡、地籍のほか荒土町新保地籍の一部を加え約四十五ヘクタールの範囲に及び勝山市街地から約一、五畝の北に位置しなだらかな勾配をもち土壌も極めて肥沃であり古来農業を専業として栄えた土地柄である。

近來日本経済の高度成長化と共に工場住宅の激増により過密現象を招き必然市街地の再編は重要課題となった。

昭和三十九年都市計画用途地域が設定されるに及び当地区が最も重要な役割をもつに至った。当時唯一の幹線である主要地方道小松勝山線が東西に

走るほか狭隘な市道と農道が存在するのみで市街化への開発は進展しなかつたが将来の発展を願い現状からの速やかな脱皮を図るため国県市各当局の指導を得て昭和四十八年滝波土地区画整理組合が設立された。以来組合員の理解と関係当局の絶大な援助を得東縦貫線及び滝波線をはじめとし区画街路が昭和四十八年着工以来約六年の歳月と八億五千万有余の巨費を投じて完成した。

この土地区画整理事業により地区の様相は一変し環境も整備され勝山市の都市計画事業に大きく寄与できたことは偏に組合員の英断とたゆまぬ努力によるものでありここに感謝の意を表すると共にこれを記念し碑を建立して後世に伝えるものである。

昭和五十三年十月十日

勝山市滝波土地区画整理組合

勝山市長 池田 勤也

理 事

但川治兵衛

理事長 藤澤又兵衛

竹内 武夫

副理事長 藤澤 孜

道林根恵昭

理 事 今井三右エ門

中野 正

笠川 馨

平澤 丈吉

笠川 嘉納

藤澤作右エ門

笠川 利丸

藤澤 佐郎

上出 甚九郎

藤本 生六

上出 甚吉

松崎 良二

川原 一男

笠川嘉右エ門

北川 義則

平澤 耕治

佐々木正人

松村 克磨

多田興治兵衛

森下 善松

多田善右エ門

長谷川文字

設計監理

勝山市都市計画課

昭和三十九年…一九六四年。



村岡中央土地改良

記念碑

勝山市長 池田 勤也

(裏)

碑文

当地区は、勝山市街地より北方二軒に位置し、黒原・五本寺・郡・滝波の四集落より構成され、一級河川滝波川・暮見川及び都市計画用途区域に囲まれている。

特産野菜の栽培が盛んな地域であるが、未整理の為水田は、不整形狭小で、湿潤軟弱である。よって汎用化に多大の労力を費やし農業の機械化が非常に困難な状態であった。

関係四集落共同施行による団体営圃場整備事業の完成により、大圃場が確立し、農道及び、用排水の拡幅整備もなされ、乾田化、汎用化、機械化営農が可能となり、水稲と野菜の複合栽培で農業経営の安定化を図り住み良

く明るい集落として子孫繁栄するよう希望するものである。
事業の概要

- 一、設立認可 昭和五十七年八月十日
- 一、受益面積 四十三・九ヘクタール
- 一、総事業費 三七八、七二〇円
- 一、工事完了 昭和六十三年三月二十五日

施工委員

代表者 竹内 武夫 委員 中野 正

池田 稔雄 中村 輝雄

藤沢 肇 中村 幸雄

廣瀬 和男 西野 成雄

齊門宇右衛門 西野 学

委員 池田 西穂 花田 真

池田 修一 平沢 文吉

上出 甚英 平沢 義範

上出 甚吉 藤沢 敬二

北川新之丞 藤沢作右衛門

小玉 健三 藤沢 佐郎

齊門 重光 前田 寿夫

佐々木正人 前田 久俊

佐々木惣兵衛 宮下 国男

竹内 徳次 山内 巖

多田善右エ門 山田 義隆

多田與治正 平沢 耕治

但川治兵衛 竹内 重雄

只川 澄夫 酒井 昭子

内藤 成雄

昭和六十三年十一月吉日

昭和五十七年…一九八二年。



牛首衛改紀念碑

以崎嶇不可歩之險更為平坦通車之路此工事何容易然而勾當其事以功勞有者為誰曰大野郡長園田雄吉村岡村長本多弥太郎其他松原五郎兵衛山岸與吉勝山人近藤欣平等是也此路從越前大野郡勝山町至加賀能美郡白峰村之間古來稱之曰牛首道甲町乙村相距七里路迂而險且有猫阪及瀧波川之難而兩地物產互貿易以相資焉苟不修本路其為不便亦已甚是以明治二十四年弥太郎等首謀改修請諸縣廳者數至翌年冬縣費改修之命下工事始就緒雖前後有百難皆排之拮据督勵遂以本年六月告竣功其改修之地則村岡村猿倉為起點經北谷村河合橋而止此路程纔二里二十餘町而費財凡一萬圓旧路之險不問而可知今也修鑿既成迂變為捷險化為夷物貨運輸之便非毫端所能悉也夫賜物於人雖鉅萬其利有盡至道路改修之遺澤則歷萬世無所窮某々之功豈可不標而紀之是此碑之所以建也 福井縣知事正五位勲五等 関 新吾篆額

横田 莠 撰

村岡普攝 書

明治三十一年七月建

改修工事担当人

高野 藤一

門 善治郎

前田吉左エ門

忝原五太郎

島田長右エ門

竹原四良兵衛

若州小濱之住

中村 弥作

中村彦太郎

中村勘右衛門

中村長右エ門

山岸善五郎

岡田長右衛門

大江久七郎

【解説】

碑は勝山と石川県の白峰を結ぶ牛首道改修工事の完成を記念し明治三十一年（一八九八）に建てられた。碑文は工事に至る経緯とその困難、および将来への恩恵を記す。

D-10 (村岡校道竣工碑)



(裏) 村岡校道

昭和九年十二月竣工

昭和九年…一九三四年。

D-11 記念碑



(裏) 記念碑

昭和六十一年九月吉日

明治四十三年八月大阪市北久太郎町

中野栞五郎氏寄附の旧鳥居此所に眠る

(参考)

(鳥居)

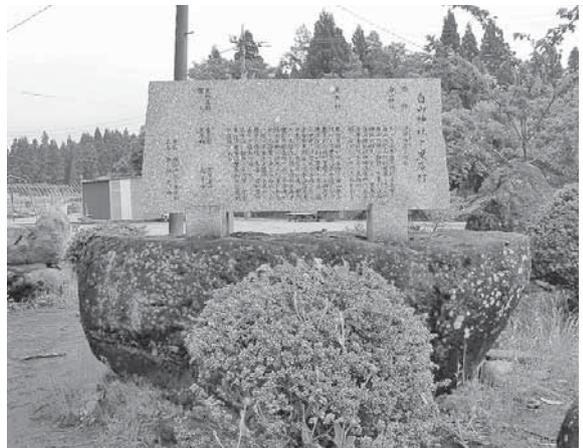
奉納

昭和六十一年九月吉日建之

氏子一同

昭和六十一年…一九八六年。明治四十三年…一九一〇年。

D-12 白山神社と黒原村



白山神社と黒原村

祭 神 伊弉冉尊を祀る

白山神社 七十七年泰澄大師 平泉寺を

白山の登山口に開基しそこに

白山の神を勧請した事が白山

神社の始まりという 黒原の

白山神社は神佛混淆時代の平

泉寺末社である 県内四一二

社 全国に二七一六社がある

黒原村 泰澄大師が平泉寺を白山登山

口にして黒原は表参道となり

恵まれた地形豊富な火山灰土

便宜な水利が農業と生活に適

し中世では可成の集落をなし
 平安朝末期より比叡山延暦寺
 の末となり天台宗に属し越前
 の一大勢力を誇る頃の平泉寺
 境内の穀倉地であり平泉寺が
 勝山平野に誇示した東の拠点
 として隆盛し天正二年の一向
 一揆に平泉寺と運命を共にし
 幾多の寺院 集落 資料等の
 悉くを燼灰に帰した
 三寺山 鈴原 長ヶ市 下倉
 半(伴) 女等は黒原村の全盛期
 の偉跡である

史料輯
 選 文

東京都 宝居善一
 黒原村 氏子中
 甲面 白山神社と黒原村
 乙面 奉納之碑

(裏)

大鳥居奉納者 建立一九八五年九月

奉納之碑

奉納者

池田 勤也	中村 政枝
前田 義馬	池田 泰一
竹内 久三	岡本 一男
川田 武雄	田鳥 倅也
鈴木 博	石田 己嶋
百足 耕一	石田 正雄
藤木 範雄	石田 進
ケイテー株式会社	門 末治

石碑奉納者 一九八六年九月十五日
 新日本石材株式会社 宝井 善一
 奉納之碑
 黒原を開拓をきうた
 先祖らを
 讃えととる
 村の石碑む

讚えととる

村の石碑む

混淆…こんとん。物事の区別や成り行きがはつきり
 しない。天正二年…一五七四年。燼灰に帰し…かい
 じん。焼けて原形をとどめない状態になる。

D-13 (村岡城碑)



村岡城 本文址

(裏)

福井県

D-14 四国八十八ヶ所登り口



四国八十八ヶ所登り口
 (側西)

銘酒竹乃葉 鈴木酒造店

(裏)

再建 平成十年十一月

村岡山観音講 世話方

太田 秀一	多田治郎兵衛
竹本 治	森口 昭二
竹内 太市	池田 義雄
平沢 耕治	清水 登
小川 均	河合 一男
中野 登	念佛寺

D-15 御大典記念



御大典記念
(側面)

寄附人 小林小太郎

昭和三年十一月

昭和三年…一九二八年。2基あり(対)。

D-16 御大典記念



御大典記念 奉獻
(側面)

昭和三年

大坂 瀧波會

昭和三年…一九二八年。2基あり(対)。

D-17 皇紀二千六百年



奉燈 皇紀二千六百年
(側面)

寄付者 東京住

中野 實

満州住

中野敬太郎

大阪住

中野 三郎

皇紀二千六百年…一九四〇年。2基あり(対)。

D-18 明治三十七八年戦役記念



奉燈 明治三十七八年戦役記念

(側面)

従軍者	森口善左エ門	木下五三郎
木下木之助	木下由太郎	山本 三作
谷口 長蔵	和田 甚吉	小林謙太郎
山本興治兵衛		
宮本 音吉	梅原要三吉	木下吉左エ門
水谷 藤七	高田 福松	高野 久蔵
岩井康太郎	田中治太夫	宮本三之丞

浄土寺軍人会長

発起者 仲村彦太郎

明治三十九年九月建之

明治三十九年…一九〇六年。2基あり(対)。

D-19 蓮如上人御掛錫



蓮如上人御掛錫

D-20 (弘法大師碑)



弘法大師 昭和五十二年十月 太田 秀吉

昭和五十二年…一九七七年。

D-21 清邪碑



清邪碑

(横に)

南無阿弥陀仏

先祖代々之墓



万治三子十一月十七日 元文元辰十一月十二日
 妙金 妙諦
 同年八月廿日 同年十二月六日
 妙清 妙智
 貞享二丑二月十七日 元文三午二月朔日 文化四年
 俗名惣八 西八 仁空儀山居士
 同三年十月十六日 明和三戌五月十二日 卯正月十三日
 妙貞 受戒
 京都西山於光明寺
 松村氏

日 寛永十七年
 南無阿弥陀仏 覺善
 月 寛永元年
 妙正

万治二年 元禄七
 正源 玄入
 亥八月廿日 戌十一月十一日
 万治元年 同年
 妙慶 妙喜
 戊正月三日 二月九日
 妙玄
 享保十八
 玄入 明和二
 丑八月十二日 玄入 同四年
 宝曆十二 教円
 午十二月十二日 同九月十日 亥十二月廿七日
 寛政三年 釋妙崇尼
 妙玄 卯三月三日
 天保二年
 妙榮
 六月三日 亥四月十日
 妙喜 正徳六
 妙祐 文政五年正月廿日
 了妙 申正月廿二日 同七申正月十九日
 享保十巳 妙智
 同十三寅正月十六日
 六月廿二日 妙意
 同十五戌 天保五年正月廿七日
 妙閑 十二月十八日
 同十九丑(寅)
 慶入 十月八日
 于時天保八酉年迄二百四十七歳
 九代目儀山建之

(横に)
 寛政三年
 釋妙玄信尼
 亥四月十日

寛永元年…一六二四年。万治二年…一六五九年。貞享二年…一六八五年。元禄六年…一六九三年。
 享保十八年…一七三三年。元文元年…一七三六年。宝曆十二年…一七六二年。明和三年…一七
 六六年。寛政三年…一七九一年。文化四年…一八〇七年。天保八酉年…一八三七年。

いと萩の
 乱し花乃
 名残
 こそ
 思ハす
 暮るゝ
 虫の声

D-22
七人塚



元禄四辛未年七月二十九日
梵字 法界萬靈平等利益
轍堂可心造之

元禄四辛未年…一六九一年。

D-23
(北若連中寄進碑)



(側面)
村社白山神社

(裏)
明治四十二年十月建設
寄附者 北若連中

明治四十二年…一九〇九年。

5節 野向地区

地区内には人物碑3、忠魂碑4、一般碑17の計24の石碑が建てられている(表9参照)。碑は竜谷・野津又・横倉の3区に集中している。市の名勝として文化財に指定されている龍谷公園には、勝山藩大庄屋の比良野家に生まれ、当村に住んだ勝山を代表する俳人の帰雲坊の句碑や、高田喜内の碑が建つ。同じく園内には紅梅塚・桜塚が建ち、これらは市の指定文化財ともなっている。

野津又には蓮如が逗留したと伝えられる野津又道場(後の長勝寺)があり、その関係で蓮如にかかわる碑が多い。横倉は三八年豪雪でアワに襲われ多くの死者を出した。その霊を弔むための慰霊碑関連の碑が多い。「越戸峠地藏尊」は永禄四年(一五六一)の銘があり中世の事例として貴重である。エコ・文化財などにかかわる碑は10基である。

表9 野向地区石碑一覧

記号	番号	名 称	分類	場 所
E	24	(越戸峠地藏尊)	一般	北野津俣
E	25	勝山市指定文化財 名勝 龍谷公園	文化財	龍谷公園内
E	26	勝山市指定文化財 紅梅塚桜塚	文化財	龍谷公園内
E	27	蓮如御掛錫	エコ町	竜谷
E	28	石灰山跡	エコ町	竜谷
E	29	箸杉	エコ町	北野津又
E	30	五三の松	エコ町	北野津又
E	31	蓮如様清水	エコ町	北野津又
E	32	不乾池	エコ町	北野津又
E	33	御丈比べ石	エコ町	北野津又
E	34	野津又城跡 (高尾山)	エコ町	北野津又

記号	番号	名 称	分類	場 所
E	1	松井村長頌徳碑	人物	牛ヶ谷
E	2	高田喜内記念之碑	人物	龍谷公園内
E	3	佐々木長勝之墓	人物	北野津又白山神社境内
E	4	殉国之碑	忠魂	深谷梅本神社付近
E	5	忠魂碑	忠魂	野向小学校敷致
E	6	慰霊碑	忠魂	横倉
E	7	慰霊碑	忠魂	横倉
E	8	竣工記念碑	一般	深谷梅本神社境内
E	9	竣工記念碑	一般	北野津又おたま屋集落センター
E	10	横倉小学校跡	一般	横倉
E	11	(白山神社遷座碑)	一般	北野津又白山神社境内
E	12	白山神社再建御造営事業奉納者名碑	一般	横倉白山神社境内
E	13	ふるさとの碑	一般	横倉
E	14	官行造林植栽記念碑	一般	牛ヶ谷山中
E	15	永代常夜燈	一般	龍谷公園内
E	16	(無尽さん)	一般	北野津又山中
E	17	頌徳記念	一般	北野津又白山神社境内
E	18	紅梅塚	一般	龍谷公園内
E	19	桜塚	一般	龍谷公園内
E	20	(日露戦役従軍碑)	一般	北野津又白山神社境内
E	21	蓮如上人御掛錫	一般	竜谷の浅井商店
E	22	蓮如上人御旧跡	一般	北野津又白山神社境内
E	23	蓮如はん清水	一般	北野津又白山神社付近

E-1 松井村長頌徳碑



松井村長頌徳碑

(側面)

昭和二十八年十月 牛ヶ谷部落民

一同建之

(裏)

林道牛ヶ谷線

開設功労者名列

福井県知事

小幡治 和

福井営林署長

前田隆太郎

福井県会議員

別田与二郎

野向村長

松井伝兵衛

此林道開設ニ当リ
松井伝兵衛氏ハ多年
ニ渉ル牛ヶ谷区民ノ
要望ニ因ヘ献身尽
力 結果県知事
他富局理解村議
会協力ノモトニ三ヶ年
ヲ経テ茲ニ完成ヲ見ル
即チ頌徳ノ碑ヲ建
立シテ区民一同
ノ微意ヲ表セント
スル次第デアル

村会議員

議長 出口 栄助 山内 治譜
副 武田平之丞 田中 松蔵

丸田 久治 山口郁二郎

南部 一 山内 重吉

松谷 松夫 山崎 権蔵

大谷治右工門 杉本四右工門

知土与兵工 収入役 椿山喜太夫

宇佐 美繁 土木主任 武田 仁雄

西出 助松 工事担当 西出 助松

吉川 実 区 長 久永与次郎

昭和二十八年：一九五三年。小幡治和：一九〇五
～九三。内務官僚。官選第35代福井県知事。公選
初代福井県知事（一九四七～五五）。

【解説】

野向村の村長を勤めていた松井伝兵衛は林道牛
ヶ谷線の開設に尽力、その功績に対し村民が遺徳
碑を建てその功績を讃えた。

E-2 高田喜内記念之碑



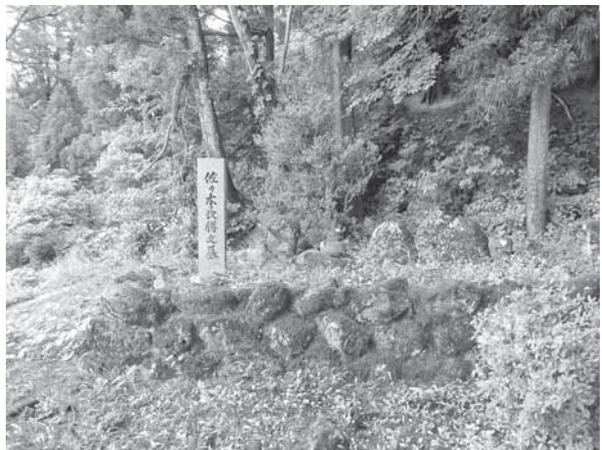
高田喜内記念之碑

龍谷法使普攝書

【解説】

高田喜内は龍谷村に生まれ大高持であったがそ
の後没落。勝山藩医高澤家の遠祖である。

E-3 佐々木長勝之墓



佐々木長勝之墓

(裏)

文明四年（一四七二年）十二月十六日七十歳寂入
平成十年（一九九八年）四月二日

北袋山法勝寺第十六世住職佐々木蓮裕建立

【解説】

長勝は長勝寺を開いた西順の俗名である。

E-4 殉国之碑



(裏) 殉国之碑

至誠院釋泰全	石田順一郎	昭和十九年七月五日行年	二十三才
白西院釋宣法	大西 喜市	昭和十九年六月十九日行年	三十二才
普門院釋教倫	木下 吾一	昭和十九年六月二十日行年	三十三才
誠心院治国良忠居士	長谷川治作	昭和十九年七月十八日行年	三十七才
洗心院釋圓淨	沢瀬藤三郎	昭和十九年十二月二日行年	二十才
信慧院釋教徳	梅本 作造	昭和二十年七月十五日行年	二十二才
真法院釋教祥	小谷 祥二	昭和二十年四月二十六日行年	二十九才
實法院釋世雄	小谷 雄吉	昭和二十年七月一日行年	二十三才
真悟院釋教康	小谷 康平	昭和二十年七月十五日行年	三十六才
顕徳院釋教幢	大森東一郎	昭和二十三年六月二十三日行年	五十四才
弘誓院釋知海	藤沢 長作	昭和十九年十二月九日行年	三十才
昭和三十五年七月吉日	深谷遺族一同		

昭和十九年…一九四四年。

E-5 忠魂碑



忠魂碑 元帥子爵 川村景明書

(裏)

大正十三年十月建之

帝国在郷軍人会野向分会

昭和二十年八月十五日
休戦ノ為メ埋没ノ余儀
ナキニ至リ昭和二十七
年四月二十八日講和発
効ニヨリ原型に復旧ス

戦死者名列碑

(一段)

(二段)

(三段)

(四段)

(裏)

昭和三十四年十一月建立

建設委員

奉賛会長 比良野 照

同副会長 藤井 寛治

同 神下伊三郎

遺族会長 山内 高雄

同副会長 西出 助松

同 堂庭 善吉

龍谷区長 増田 政

竹林同 竹内 謙

聖丸同 藤井 寛治

深谷同 出口宗一郎

薬師神谷同 山内 重吉

牛ヶ谷同 玉木 一雄

北野津又同 吉川 惣一

横倉同 松本 務

中辻 幸一

大平 馨

大平 丸以

土井 明

嶋田 仙治

高田 栄

堂庭 善孝

尾崎 杉造

沢瀬藤三郎

武田 長栄

水上 進

木下 春晴

杉本 末丸

岩田順一郎

堀井 市治

長谷川治作

吉川 治作

松原松太郎

上山 総吉

橋本 謙次

松井 伝次

上山 薫

荒谷 孝

清水久太郎

有原 論

内田 東一

小泉 正

小林 勉

大森東一郎

川崎 政治

長谷川開次郎

池田 藤吉

池田千代吉

玉水長太夫

木下 吾一

木下由太郎

吉川 京作

下川 利雄

岸下 吉栄

平野 伝吉

高田 玉次

高田 甚一

森本 与助

大平 一馬

水上 一雄

木原 甚一

北川 力松

大西 嘉市

佐々木清一

夢田 稔

前川 容秀

水上 四井

堂庭憲二郎

小泉 貢

小谷 雄吉

梅本 作蔵

野田 徳松

灰谷 勝栄

藤井 圭治

土井 崑

山内 直秀

小谷 康平

田中 仁吉

中村 乙吉

南部仙太郎

倉田源石工門

田中 留七

前田 前蔵

山口 勘吉

出口 栄助

宮崎伝次郎

平野 伝吉

藤井 為七

西出 港

畑中 豊治

山口 孝

山内 静

山内 秀男

大平 末吉

伊藤 力蔵

山内 義光

高田 武士

小谷 祥二

山内 高直

竹内 彦一

荒谷 繁松

出口 弘

中村 齐



E1657 慰霊碑

大正十三年：一九二四年。昭和二十年：一九四五年。川村景明は村岡村の忠魂碑の注参照のこと。

慰霊碑

昭和三十八年一月二十四日午後零時半頃当地にしゆ来したあわのため十六名の死亡者を出した中に三名の児童があつた私たちは心より冥福を祈ります

小学五年 吉川 芳子

小学三年 古川 義光

同 吉川 孝正

(裏)

昭和三十八年十二月二十日建立

横倉小学校

鮎本 克巳
山岸 彰
奥村 和子
児童会

慰霊碑

昭和三十八年一月二十四日正午頃、堂庭坂附近より竜巻の如きアワとなつて、一舜にして十六名の命を奪つた、霊峰聳える大日の胸に抱かれし、御霊の冥福を祈る 住職

(裏)

昭和五十二年八月吉日遺族
宮越 静栄 吉川 忠雄
宮越たるゑ 吉川はつゑ
古川ちゑ子 吉川 実
古川 義光 吉川ふさ子
古川 憲治 吉川 孝正
古川 ミス 吉川 芳子
古川 浄子
古川 俊治
古川 奨
古川 新一

昭和三十八年…一九六三年。

E-8 竣工記念碑



深谷区中山用水全線改修工事
竣工記念碑

(裏)

事業推進特別功労者

福井県議会議員連続当選拾回

笠羽清右工門

工事概要

総工事費 四仟四百万円

水路延長 三千百米

部落負担 四、五割

着工 昭和五十七年十月

完成 昭和六十二年四月

施工業者 藤沢一井土建

大幸建設

昭和六十二年十月十日建立

施工行委員長

長谷川正男

副委員長

岩田隆三郎

委員

沢瀬 徳松

森本喜代次

久保清次郎

椿山 弘

寺本 新宝

木下 由松

橋本新二郎

平林 定吉

出口 与吉

片山 修一

鎌田 三雄

梅元 俊夫

平林 高直

中村 啓一

橋爪 与市

寺本 新二

知土 昇太

山平庄太郎

椿山 一英

知土与志雄

出口 純光

平林三太郎

平野 文雄

山口郁二郎

大西 嘉六

長谷川武蔵

椿谷 忠

長谷川儀一

西村 強

西村 藤作

森本 泰蔵

森本 吉栄

長谷川治士

山平弥太郎

長谷川一夫

昭和五十七年…一九八二年。

E-9 竣工記念碑



土地改良事業

竣工記念碑

(裏)

碑文

農業の近代化が

進められる中で

昭和四十八年より

六十二年にかけて

総工費二億三仟萬

円を投じ積三五九

ヘクタールに及ぶ土地

改良事業の完成

を見る

北部土地改良区

北野津又土地改良共同施行

第二土地改良共同施行

昭和六十二年九月建之

昭和四十八年…一九七三年。

E-10 横倉小学校跡



(裏)
横倉小学校跡

平成24年8月12日

E-11 (白山神社遷座碑)



北野津又白山神社遷座
寄附者 松井仁左工門
武田新右工門
倉田源右工門

(側面)

昭和四十一年一月吉日

北野津又白山神社氏子中

(裏)

當白山神ハ明治十六年兩ヶ
田ヨリ遷座スルニ當リ當社
地ヲ寄附セラレタルモノナリ

明治十六年…一八八三年。昭和四十一年…一九六
六年。

E-12 (白山神社再建御造営事業奉納者名碑)



白山神社再建御造営事業奉納者名

花岡 隆臣	京都市	金森ちゑ子	石川県	梅田 義昭	勝山市	加賀 本吉	愛知県	広瀬 健	勝山市	福田千代司	勝山市
成川 惟臣	京都市	山岸 俊三	神奈川県	北川 教高	勝山市	木下 義盛	愛知県	松原 重雄	勝山市	松井 貢	勝山市
北川 宏隆	京都市	山岸 敬一	神奈川県	西野 幸雄	勝山市	高田 春雄	愛知県	平尾 勝章	勝山市	古川 明	勝山市
木下名雄基	京都市	大橋 巧	鯖江市	山崎 治	勝山市	箱屋 一男	愛知県	吉田 勝	勝山市	石倉 清治	勝山市
和田 強	大坂府	宮越 伸治	福井市	斉藤しずこ	勝山市	古川 弘	愛知県	山岸 彰	勝山市	山崎 敏雄	勝山市
島 広光	大坂府	古川 輝幸	福井市	黄倉金治郎	勝山市	松原 孫市	千葉県	松原 久敬	勝山市	宮川 富子	勝山市
北川 義則	大坂府	橋本 登	福井市	谷口トシ子	勝山市	松原 義雄	千葉県	平尾 捨吉	勝山市	藤井嘉二郎	勝山市
伊藤 末丸	大坂府	松本 利雄	福井市	黄倉金一郎	勝山市	松原 孝雄	千葉県	杉本 正雄	勝山市	玉木末太郎	勝山市
北川 正雄	大坂府	松本 守一	福井市	黄倉金右エ門	勝山市	松原 重信	千葉県	北川 義一	勝山市	松村 直秀	勝山市
北川 悟	大坂府	長谷川尚美	福井市	山岸 広光	勝山市	松原 誠	長野県	黄倉 重紀	勝山市	佐野美代子	勝山市
平尾 保	大坂府	西山 弘	福井市	松原 満夫	勝山市	島 澤一	岡山県	松原 正七	勝山市	高尾 節子	勝山市
北川 清	大坂府	山内 松治	松岡町	北川 博正	勝山市	平尾 義明	宮崎県	宮越 保	勝山市	山岸 正雄	勝山市
野村 正守	大坂府	後川まゆみ	松岡町	川崎 宗孝	勝山市	木下 捨吉	東京都	古川 栄	勝山市	北川 宏哉	勝山市
笠井 敦子	大阪府	尾崎 藤蔵	上志比村	古川 清	勝山市	木下 龍夫	札幌市	柳原江千代	勝山市	坂井 敏男	勝山市
吉川 英一	大阪府	黄倉 武志	大野市	高田 重雄	勝山市	春木さくゑ	石川県	宮崎 稔	勝山市	北川 一栄	勝山市
古川 弘雄	大阪府	尾崎 高丸	大野市	宮崎 実衛	勝山市	竹中 信子	石川県	長谷川さよ	勝山市	伊藤満里子	勝山市
平尾十一郎	大阪府	松本 美代	大野市	尾崎 道雄	勝山市	箱家 一男	愛知県	児玉 緑	神戸市	横川 義一	勝山市
藤井 照	大阪府	高岡 元治	大野市	前田 玉治	勝山市	(裏)					
宮越 節子	大阪府	前田 博次	大野市	西山美登里	勝山市	特別寄進者	島田藤治				
山下ヒサエ	大阪府	中出ツヤ子	大野市	宮越 尊夫	勝山市	(神社再建生コン全量奉納)					
平尾 正一	和歌山市	北川 繁盛	大野市	西又 武司	勝山市	役員 宮越 伸治	総代・委員	杉本 時海	総代	吉田 勝	
伊藤 秀治	和歌山市	南江八重子	大野市	加藤みや子	勝山市	役員 北川 清	総代・委員	広瀬 健	総代	尾崎 高丸	
古川 利明	和歌山市	平尾 正治	勝山市	長谷川 諭	勝山市	役員 花岡 隆臣	総代・委員	松原 重雄	総代	宮越 保	
平尾 正行	和歌山市	北川 政吉	勝山市	西山 誠二	勝山市	役員 古川 平治	総代・委員	北川 薫	総代	平尾 正治	
黄倉 誠二	兵庫県	杉本 時海	勝山市	古川 宏	勝山市	役員 山岸 彰	総代・委員	北川 政吉	総代	伊藤 秀雄	
吉田 義広	兵庫県	北川 薫	勝山市	平尾 勝利	勝山市	役員 古川 宏	総代	高田 重雄			
平尾 茂	奈良県	古川 平治	勝山市	川島 敏栄	勝山市	役員 宮崎 実衛	総代	平尾 勝章			
平尾 春吉	奈良県	伊藤 秀雄	勝山市	北川 雅敏	勝山市	平成二年 八月吉日					

E-13 ふるさとの碑



ふるさとの碑
ふるさとの歌

作詞・作曲 奥村 和子

- 一、大日おろしのはげしさも
凍てつく冬のきびしさも
耐えて忍びし我が祖先
青き山なみ清き谷
ああ忘れざるはふるさとよ
- 二、互いに育てし友愛は
永遠に消ゆることもなし
みたま眠れる十六の

横倉の里小さき村

ああ忘れざるはふるさとよ

(裏)

横倉雪害五十回忌記念

平成二十四年七月吉日

E-14 官行造林植栽記念碑



官行造林植栽記念碑

(裏)

大正十三年三月公有財
産整理統一許可村基本
財産編入官行造林法基
同十五年九月大阪官林
局長児玉孝顕造林契約
締結面積二百町歩昭和
二年十一月記念植栽為

永遠茲遺碑銘

昭和二年十一月建設

管理者

福井官林署属 平川萬之進 横

村 長 藤井治太夫 福井官林署長 工藤 誠

議員 大森 嘉蔵 助 役 武田六左識之

武田 六左 建設係 久我 與吉

武田 新蔵 石工 水口 與吉

滝本仁太夫 役場吏員 堀 廣吉

高田皆次郎 中村與兵衛

内田 市助 久永 與吉

前川 與吉 増田 政

桐嶋 源松 竹内 哲也

宮越 静栄 施業代理 道理重郎右工門

平尾 仁吉 農 課 畑中 豊

昭和二年：一九二七年。大正十三年：一九二四年。

【解説】

国有林が牛ヶ谷区に編成替えとなり村有となつたことを記念し、昭和二年に記念植林が行われた。

E-15 永代常夜燈



奉納
永代常夜燈
大正十三年九月吉日
大阪 田渕清吉

大正十三年：一九二四年。

E-16 (無尽さん)



无盡見參窮虚
勝信參成信

【解説】
摩耗が激しく読めない文字がある。碑は市の文化財に指定されている。

E-17 頌徳紀念



頌徳紀念
(裏)

- 芳名 大平 源恠
- 李下 次郎
- 水上 竹造

【解説】
三人が鳥居二つと花立台を寄附したことに對し建てられた。書は吉川和吉。

E-18 (紅梅塚)



紅梅やみぬこひつくる玉すだれ

芭蕉翁

(安政六年三月)

安政六年…一八五九年。

E-19 (桜塚)



明日ありとおもへと暮る、桜かな

比良野青巖

明治二十年春四月十日

明治二十年…一八八七年。

E-20 (日露戦役従軍碑)



日露戦役従軍々々人

(裏)

村社白山社

(側面)

明治四十一年九月建之

(側面)

水上 甚蔵	荒谷弥太郎	道下 捨蔵
奈良 七助	大平 廣吉	大平 重泰
水上 嘉市	荒谷治良吉	倉田 源奈
武田長治郎	廣瀬 吉蔵	斎藤 初蔵

明治四十一年…一九〇八年。

E-21 蓮如上人御掛錫



蓮如上人御掛錫

掛錫…けしやく。僧が行脚の途中、他の寺に一時とどまること。

E-22 蓮如上人御旧跡



蓮如上人御旧跡

(裏)

昭和五十七年四月吉日建立

遺徳会

昭和五十七年…一九八二年。

E-23 蓮如はん清水



蓮如はん清水

(側面)

宝徳元年上人御巡錫同時涌出

(裏)

昭和五十七年四月吉日

老人会

宝徳元年…一四四九年。巡錫…じゅんしやく。僧侶が各地を巡行して教導すること。昭和五十七年…一九八二年。



永録四年

閏三月

永録四年…一五六一年。

表10 北谷地区石碑一覧

記号	番号	名 称	分類	場 所
F	1	(柴田監物墓)	人物	河合
F	2	忠魂碑	忠魂	河合と谷の間
F	3	慰霊碑	忠魂	木根橋滝波発電所
F	4	平和の礎	忠魂	中野俣
F	5	中尾発電所記念碑	一般	中尾国道沿い
F	6	木根橋火葬場跡	一般	木根橋
F	7	望郷	一般	中野俣
F	8	木根橋出身表忠碑	一般	木根橋道場
F	9	(不動明王坐像)	一般	谷不動滝
F	10	(天保飢饉供養碑)	一般	木根橋
F	11	取立山板碑	一般	御所ヶ原国道沿い
F	12	(土地寄附碑)	一般	谷伊良神社境内
F	13	谷城跡	エコ町	谷伊良神社境内

6節 北谷地区

地区内には人物碑1、忠魂碑3、一般碑8の計12基の石碑が建てられている(表10参照)。山間部という地理的な障害もあり点数は少ない。そんななかにあつて木根橋の天保の飢饉碑は、市内に残る数少ない災害供養碑として貴重である。また同区の表忠碑は、西南戦争から日清戦争までの戦没碑として歴史的な価値を持つ。

河合の「柴田監物墓」と谷の「不動明王坐像」は市の指定文化財でもある。中野俣の望郷碑は廃村となった村の記念碑として建てられたものである。エコ関係碑は1基である。

村山岩三郎	永下 俊永	大石橋京松
西 太市	中村五郎作	大山口仙左門
田中 繁行	小林 太	小林藤太郎
石井 利夫	谷川 末男	山岸 善治
山内 正四	安岡 久弥	永井 勇
番戸 平忍	結川 末	杉本 正男
山内 政幸	竹原 太士	斎藤 一弥
三井清三郎	落合 勉	横濱 留
坂上 豊	出水 留吉	田中 藤市
西野 市松	安岡 政治	小林 茂喜
源野源太郎	堀明 正	大山口三之助
山内 武雄	小田 政野	山内 長門
小林松太郎	大石 橋清	(八段)
丸山 信治	札ノ辻継太郎	大山口平二
山岸 實	山口 勇	竹原 孝
山崎 一男	大山口伊太郎	髭野 善雄
藤井 俊雄	大石橋政二	中村 新一
中村 新市	(七段)	田中 武
藤井 幸男	安岡 竹男	小林 岩男
田中 彰	荻安 七郎	結川五左門
安岡 健治	源野源三郎	山本 與吉
山本 廣生	斎藤 彬	大山口松尾
(六段)	林 音吉	沼田庄治郎
南茂 接竹	竹原 廣瀬	軒内 定
永下 福男	西山 廣吉	善浪 敏
横山 要作	加藤 義雄	山内長治郎
山内 勝蔵	安岡 勝三	鈴木 茂
小林治太郎	藤井 光雄	竹原 京治

大東亜戦争終戦二十周年記念

昭和四十年十一月建之

北谷町遺族会

(別碑)

福井県大野郡北谷村遺族更正会

(側面)

昭和二十五年十月再建

昭和七年…一九三三年。

F-3 慰霊碑



(裏)

慰霊碑

慰霊のことば

昭和三十七年第二次福井

県電源開発事業として着

手した瀧波川発電建設事

業は未曾有の豪雪等はげ

しい自然の試練に耐え、

幾多の技術的難関を克服

して今ここに完工した。

しかし、この大事業の完

成の蔭には尊き

山形甚太

村田三郎 三氏の

新谷三郎

殉職があつたことを肝に

銘じなければならない。

工事の完成にあたり、こ

の処に慰霊の碑を建立し

て永くその功績を讃え、

後世に伝えると共に御冥

福を祈る次第である。

昭和三十九年十月

福井県知事 北栄造

昭和三十七年…一九六二年。北栄造…石川県出身。公選
第3代知事(一九五九〜六七)。



平和の礎
 苛烈なる大戦の惨禍を蒙り
 戦場に斃れ尊命を失しな
 われた古里出身の方々に
 謹んで哀悼の意を奉持し
 世界と祖国の同胞に恒久
 平和の誓いを捧げて茲に
 碑を建立する

(裏)

仏説無量寿経

仏の遊行する処は国となく
 町となく村も山の果て迄も
 総て化益を蒙らざるはなく
 天下和順し日月清明にして
 風雨は時を以て来り 災厲
 起らず国豊かに民安らけく
 兵戈用ふることなく 萬人
 徳を崇め仁を興し 務めて
 礼讓を修す

合掌

苛烈：かれつ。きびしく烈しいこと。惨禍：さんか。いたましいわざわい。斃：たおれる。化益：けやく。化導して利益を与えること。災厲：さいれい。わざわい。兵戈：へいか。武器。礼讓：れいじょう。他人に礼を尽くしてへりくだること。明治三十七年：一九〇四年。昭和十九年：一九四四年。平成二年：一九九〇年。

戦没者氏名	命日	行年	戦没地
加藤 庄市	明治三十七年九月十日	二十六才	清国清泥窪
織田 義雄	昭和十九年七月十三日	二十九才	ビルマサムカン
杖谷 次二	昭和十九年八月六日	二十四才	ビルマトンヘ
村山石三郎	昭和十九年九月十一日	二十八才	中国雲南省
山口 清六	昭和十九年十一月十七日	二十一才	南支那海
落合 勉	昭和二十年二月十日	二十三才	ルソン島
堀明 正	昭和二十年二月二十五日	二十一才	マニラ
安岡 竹男	昭和二十年四月二十三日	二十四才	ルソン島

平成二年九月建之

中野俣朋友一同

F15 中尾発電所記念碑



中尾発電所記念碑

(発電所概略は省く)

(裏)

中尾発電所のあらまし

河川名 九頭竜川水系滝波川

所在地 福井県勝山市北谷町大字中尾

24号字西平22番

発電方式 水路式

認可出力 800 KW

発電開始 明治41年9月(1908年)

廃止 平成4年7月(1992年)

発電事業者 京都電燈株式会社

(昭和26年北陸電力株式会社引継)

福井市

(有) 田中石材店施工

F16 木根橋火葬場跡



木根橋火葬場跡

(裏)

記碑

昭和三十二年七月建立

平成十一年五月解体し後地として残す

平成十一年六月吉日建立

昭和三十二年…一九五七年。

F17 望郷



望郷

ふる里に感謝の念を

捧げ祖先の霊を敬ひ

由縁ある里人の多

幸を祈念してこの

碑を建つ

昭和五十五年六月吉日

中野侯出身者一同

奉燈

平成十四年五月吉日

中野侯出身者一同

F18 木根橋出身表忠碑



木根橋出身表忠碑

日月麗天山河環地四海波靜而風雲之變起於其間所以聖主登極百僚補彌億兆謳歌雖然不能無干戈動於其間也是以修文講武臣民有兵役矣 皇明治丁丑西南之役大竹口岩松從軍罹病十一年一月廿七日死於名古屋師團甲午征清之役大山口治郎從軍罹病廿七年十一月三日死於朝鮮平安道安洲病院先是臺灣歸俄而頑民嘯兇大竹口仁左衛門隸臺灣守備隊伐之卅五年十一月廿七日戰死於久能山云嗚呼生為邦家于城死作浄土聖衆豈不樂乎郷黨立石表忠云爾

明治卅六年十月 日 大僧都白華撰并書

【解説】

明治十年（一八七七）の西南戦争、同二十七年の日清戦争に木根橋から出兵し、戦死した兵士の霊を弔うため建てられた。

F19 (不動尊石仏)



慈明権少僧都

天文二十年辛亥七月吉日

天文二十年辛亥…一五五一年。

F110 (天保飢饉供養碑)



天保十五年 惣村三枚

南无無阿弥陀佛

代人 四ノ買受

天保十五年…一八八四年。

【解説】

摩耗していて一部読めない文字がある。天保飢饉にかかわる供養碑と思われる。

F-11 取立山板碑



取立山板碑

中村 光 二十七才 齒科医師
 加藤一雄 十八才 藤島高校生
 牧田 繁 十八才 乾徳高校生

昭和二十五年一月二十二日早暁
 木根橋むらを出発した三人の予
 定は、東山より取立山に至り、
 護摩堂峠を目差すスキー登山で
 あった。然し前日来の風雪は烈
 しく、午前十一時稜線到達のこ
 ろより、寒気と疲労は一人の歩
 みを妨げ始めた。

取立山午後一時、疲労に斃れん
 とする仲間を二人は庇いつ、大
 斜面を徒歩で下降し、午後四時
 には護摩堂峠に到着した。

このときに至りリーダーはピバ
 ークと決す。

急造の雪洞に牧田を介抱する有
 様は中村の遺書に詳しい。

午後十一時、牧田は極度の疲労
 から洞中に凍死。翌早朝東山む
 らに救援を求めんとした二人は
 室目谷を下降中、中村、加藤の
 順に凍死した。 合掌

悲しみて立つにあらなくに
 湧く涙山に果てたる若き身
 思いて

熊谷太郎 歌集雪明より

昭和五十五年十一月三日 再建

光母 中村むめ

斃れ…たおれ。

【解説】

昭和二十五年（一九五〇）一月、取立山へ冬山
 登山に出かけ遭難した三人の行動が記されてい
 る。

F-12 (土地寄附碑)



土地寄附 勝山町
 石畝喜兵衛

表11 荒土地区石碑一覧

記号	番号	名 称	分 類	場 所
G	1	多田清翁頌徳碑	人物	新保公民館
G	2	(乗祐法師碑)	人物	新保
G	3	島田喜右衛門翁頌徳碑	人物	妙金島荒鹿橋東詰
G	4	竹内茂一氏頌徳碑	人物	伊波
G	5	竹内茂一氏頌徳碑	人物	荒土小学校敷地
G	6	故原田仁一郎碑	人物	伊波
G	7	西尾五作氏頌徳碑	人物	北新在家
G	8	筆塚	人物	細野白山神社境内
G	9	忠魂碑	忠魂	荒土小学校付近
G	10	土地改良記念碑	一般	北宮地白山神社境内
G	11	記念碑	一般	北新在家
G	12	完成記念之碑	一般	新保
G	13	竣工記念碑	一般	新道 林道
G	14	竣工記念	一般	新道 林道
G	15	氏神社殿建立時奉納寄進者記念碑	一般	布市
G	16	社殿建築記念碑	一般	堀名日吉神社境内
G	17	遷座記念碑	一般	別所白山神社境内
G	18	(賢勝寺由緒碑)	一般	別所賢勝寺境内
G	19	俱会精舎	一般	別所賢勝寺境内
G	20	植樹記念	一般	妙金島白山神社境内
G	21	記念樹	一般	松田白山神社境内
G	22	(記念植樹)	一般	別所賢勝寺境内
G	23	(創立二十周年記念植樹)	一般	別所賢勝寺境内
G	24	御即位御大禮記念碑	一般	松田白山神社境内
G	25	大典記念碑	一般	別所白山神社境内
G	26	親鸞聖人尊像	一般	別所賢勝寺境内
G	27	(れんによさま碑)	一般	別所賢勝寺境内
G	28	夜泣き地藏(由緒)	一般	別所賢勝寺境内
G	29	佐羅宮(白山一宮神社)	エコ町	伊波
G	30	壇ヶ城跡	エコ町	堀名中清水
G	31	堀名銀山跡	エコ町	堀名
G	32	石灰山跡	エコ町	堀名

地区内には人物碑8、忠魂碑1、一般碑19の計28基の石碑が建てられている(表11参照)。人物碑の占める割合が高く全体のほぼ3割を占める。その中でも三浦栄信の筆塚は市内でも数少ない事例で、しかも文字が完全に判読でき歴史資料としても貴重である。なお竹内茂一の碑は2か所に見られる。

土地改良や道路用水にかかわる碑あるいは植樹にかかわる碑も多い。別所の賢勝寺境内には宗教にかかわる多くの碑が建てられている。エコ関係碑は4基である。

7節 荒土地区

G-1 多田清翁頌徳碑



多田清翁頌徳碑

(裏)

翁ハ明治三十八年七月二十七日
多田三右エ門家ノ二男トシテ
誕生幼少ニテ上阪刻苦精勵シテ
成功ヲ遂ゲ愛郷心深ク父祖ノ
供養ノ為今回新保公民館ヲ建設
サレシ功績ニ感謝ノ意ヲコメテ
此ノ偉業ヲ永遠ニ讃エ此ノ碑ヲ
建立スルモノ也

昭和四十五年十一月新保区一同

多田清翁壽像

(裏)

多田清翁には常に

父祖の地を愛せられ

下記乃如く新保区の

為多大の御寄贈を賜

り区民一同翁の御厚

志に対し深甚なる感

謝の意を表し

翁の御胸像を建立し

て後世にその偉業を

顕彰いたします。

昭和六十二年十二月吉日

新保区民一同

多田清翁御寄贈録

一昭和四十五年新保公民館兼道場新築

一昭和五十年白山神社大鳥居建設

一昭和五十年白山神社神殿改築

一昭和五十年白山神社拝殿屋根銅板葺替

一昭和五十年白山神社境内玉垣新設

一昭和六十二年白山神社拝殿新設

一昭和六十二年白山神社参道新設

一昭和六十二年白山神社御手洗新築

一昭和六十二年白山神社境内玉垣増設

一昭和六十二年白山神社資材格納庫新築

一昭和六十二年公民館兼道場鉄筋

コンクリート改築

明治三十八年…一九〇五年。昭和四十五年…一九七〇年。

【解説】

越前大仏の建設、教育福祉会館の建設などに多額の寄附をなし、勝山名誉市民第1号に推薦された。横に多田清翁寿像がある。

G12 (乗祐法師碑)



浄土真宗昌蔵寺

開基釋乘祐法師

永正三丙寅七月十日寂

佛教大学長

法琛書

(側面)

昌蔵寺第十六世

朝倉福山建

大正十二年三月

(裏)

彫刻寄附 勝山町矢戸新太郎

永正三丙寅…一五〇六年。大正十二年…一九二三年。

G13 島田喜右衛門翁頌徳碑



島田喜右衛門翁頌徳碑

参議院議員 山内一郎書之

(裏)

翁ハ明治十九年二月八日島田喜兵衛家ノ三男トシテ誕生若
幼ニテ立志上京神佛敬愛ノ信厚ク質実剛健温厚ニテ努
力成功遂ゲ愛郷心深ク部落発展ノ為電灯引込ミヲ始メトシ灌
漑用水路消防施設耕地整理神社改増築事業其他ニ生涯寄與
サレ更ニ今回部落公民館ヲ建設サレシ功績ニ感謝ノ意ヲコメテ此
ノ偉業ヲ永遠ニ讃エ此ノ碑ヲ建立スルモノ也

昭和四十四年初夏 妙金島区

明治十九年：一八八六年。昭和四十四年：一九六九年。

【解説】

喜右衛門は明治十九年妙金島村の名家である島田喜兵衛家に生まれた。故郷
のために各種施設を建設しその功績で区民総意により碑が建てられた。没年は
不明。

G14 竹内茂一頌徳碑



竹内茂一頌徳碑

福井県知事 羽生雅則書

(裏)

昭和十二年三月建之 荒土村
昭和十二年：一九三七年。



竹内茂一頌徳碑 株式会社 飛鳥組中

(裏)

君性ハ竹内名ハ茂一荒土村伊波區ニ生ル幼ニシテ父ヲ喪フト雖佛教篤信ノ母ニ撫育セラレタレハ生涯ヲ通シテ言行忠信表裏相應ス長シテ土木ノ業ヲ興スヤ温厚ノ資性能ク東西ニ馳驅シテ志願倦ム事ナク勇猛精進ナリキ其ノ間大野郡業煙草耕作組合聯合會長郡農會長荒土村長ニ任シテ良ク郷土自治ノ為メニ盡セリ殊ニ福井市飛鳥組ニ入りテハ工業主任トナリ続イテ重役又ハ顧問ニ擧ケラレテ敏腕ヲ振フト雖モ亦内ニ堅實ノ信念アリテ慈愛溢ル、如ク氏ノ指導ヲ受ケ其ノ至誠ニ培ハル、モノ千数百人ノ多キニ達セリ世道人心ノ荒廢セル今時氏ヲ追慕敬愛スル又所以ナキニ非ス然ルニ昭和十一年春病魔ノ犯ス所トナリ遂ニ不帰ノ客トナル時ニ享年六十有五氏ノ慈惠ニ浴スルノ徒其ノ徳ヲ仰イテ已マス茲ニ碑ヲ建立シ以テ厥ノ徳ヲ記スト云爾 昭和十二年五月建之 東洋大學講師梅田彰等書

(側面)

浄徳院釋勝養

飛鳥組合長 飛鳥 文吉

発起人 飛鳥 繁

山形 甚吉 熊谷三太郎

朝熊 栄吉 酒井 利雄

武藤 彦治 中野 寅吉

世話人 前田 與市 原田 貢

尾崎 秀一 北條與四郎

賛助者 野村栄太郎 朝谷 京松

田中 與作 平林久之助 渡辺 茂樹

早川真左衛門 池尾 仰兵 上田 専三

森下 教助 山崎三之助 弘川 市造

中谷長太郎 田中久左衛門 井上由太郎

茶谷 嘉蔵 岡田 栄作 西宇 太郎

竹内平之進 清水 仁作 大六 義二

大橋 善真 高藤 行 沢谷 総造

原田 弥作 森島 耕作 高瀬 弥市

戸倉 金丸 石畝喜兵衛

県議員 布川 長平 松村 利一

松田 輝治

昭和十二年…一九三七年。

【解説】

石碑は社員等により建設されたものである。竹内茂一は明治五年(一八七二)荒土村伊波に生まれた。大野郡会議員、荒土村会議員、同村村長など長年にわたり地方政治に携わった。また、飛鳥組に入社し顧問として多くの人材を育てた。

G16 故原田仁一郎碑



故原田仁一郎碑

飛鳥組中

(裏)

君姓ハ原田名ハ仁一郎荒土村伊波區ニ生ル資性温厚夙ニ土木
工事ヲ好ミ五十餘年ノ長キ生涯ヲ一意斯業ニ委ネ東奔西走工事
ニ勤メテ餘念ナク殊ニ晩年福井市飛鳥組工事主任トシテ名聲噴々
タリ常ニ慈愛深切到ラサルナク熱誠ナル指導ヲ受ケシモノ数百人ノ多キ
ニ達ス君力懇篤ナル援助ニ依リ自活ノ道ヲ得タル者少カラス然ルニ大正六
年初夏病魔ノ犯ス所トナリ遂ニ不歸ノ客トナル時ニ享年五十有八
恩恵ニ欲スルノ徒追慕シテ已ス茲ニ碑ヲ建テ以テ厥徳ヲ記スト云爾
大正七年七月樹之 村岡晋撰書

發起人 竹内 茂一

平井 久吉

前田 與市

賛同者 飛鳥文次郎

飛鳥 文吉

伊井興三五郎

熊谷三太郎

高熊龍次郎

武藤 彦治

石附仁三郎

北條與四郎

河口 作藏

中村八之助

山形 甚吉

松島栄次郎

(側面)

釋教現 大正六年六月十三日

大正六年…一九一七年。

【解説】

原田仁一郎は万延元年（一八六〇）伊波村の広田五左衛門の二男に生まれた。明治八年（一八七五）に原田家の養子となった。幼少より土木工事に関心を持ち生涯をこの事業に捧げた。飛鳥文次郎の帳付番頭として、飛鳥組の基礎築いた人物である。

G17 西尾五作氏頌徳碑



西尾五作氏頌徳碑

福井県知事

北栄造書

(裏)

五作氏者恒温厚篤実而敬神信佛之念敦厚 曩
寄進梵鐘折敷今亦堂宇誠奇特之至也 茲区民
相因為鎮祖靈祈安泰建碑永遠伝承君之偉徳也
略曆明治四十五年六月一日西尾喜一郎次男誕生昭和二年十月出関上京
昭和二十五年創立福井製菓株式会社 為同社々長 及今日之隆昌
昭和二十九年初夏 北新在家区

明治四十五年：一九二二年。昭和二年：一九二七
年。

【解説】

西尾五作は明治四十五年に荒土町新在家村に生
まれた。昭和二年上京し同九年に菓子会社「福井屋」
(後「福井菓子株式会社」)を創業した。チョココレ
トの製造販売で知られる。昭和六十年没。

G18 筆塚



(裏)

筆塚 細野門弟中
為故三浦先生之記録頌徳
大正拾年十月月建之
敷地日谷家寄附

大正拾年：一九二二年。

G19 忠魂碑



忠魂碑

(二段)

齋藤 与市

島田 太助

大谷 鶴松

中村 松吉

西脇 梅吉

南部伝太郎

島田与八郎

杉元 拾吉

齋藤七兵衛

久保 勇吉

藤井與三松

森石 政治

中村 栄

水井 苗丞

西脇 仁作

島田 泰隆

島田 銈

岩佐 勘左

島田 武夫

山内 七栄

小林 重一

杉元 悟

土田 市繁

北川文太郎

岩倉 佐市

大谷 光栄

田中竹次郎

櫻井 豊吉

笠羽 俊次

松山 一正

岡本 福一

多田 稔

岩岡 広治

石橋 渡

味見 勇

(二段)

丹後 胆勇

泉川 平夫

西浦 栄

市岡 喜一

岸下 善夫

下牧 博

中村 三作

立壁 邦雄

中道 弥七

下道 利雄

坂上 正治

多田 清作

丹後繁太郎

松本長太郎

田中 広

渡 正

黒田和三治

村田 正

島田 静夫

立壁小太郎

山内 末治

水田 秀雄

多田 登

西尾 与市

立壁 利男

原田 五郎

北川 登

橋爪 利雄

横山 一夫

南部 久輔

布川 茂

下川 幸六

丸山庄次郎

川端 稔之

水上 嘉市

(三段)

袖川 隆志

西脇 留吉

島田 忍

廣田幸太郎

廣田与之進

島田弥三治

藪下 儀

境井 作治

下牧 政夫

中村佐太郎

日谷 武夫

森 正朝

森石 一治

大谷 重信

土田 市光

岸下 善一

橋爪 藤市

島田 利夫

松下総五郎

横山 義栄

大谷 豊

大谷栄次郎

本田明太郎

笠羽九馬男

内田 吉馬

小林 光男

内田 吉高

田中 武

南部 博

立壁 悟

福田 正文

島田 豊治

島田 文雄

鈴木三千夫

竹内 新一

(四段)

国本 高栄

北川 博一

黒田 劍十郎

川端 清松

木下 仁市

笠松 与

島田 正秋

反保 巧

岩田 善積

西脇 成男

西脇 末

岩佐 長市

石井 敬一

森石 数馬

松井 恒男

岡本 朗

毛利 新作

久保 吉平

荒谷 末治

西山 弥市

島田 忠右エ門

笠羽 重太郎

丹後 胆郎

石井 勇

和田 数雄

小林 光夫

横山 斎太郎

森石 平

石塚 仁作

川端 豊一

G10 土地改良記念碑



土地改良記念碑

(裏)

北宮地土地改良組合

設立 昭和四十四年八月二日

工事施工 昭和五十年四月十日

登記完了 昭和五十五年三月七日

G11 記念碑



記念碑

福井県知事 中川平太夫書

(裏)

碑文

従前の農地は不整形狭小田で地形的条件は極めて悪く農道は畔道が多く水路に至っては用排兼用で屈曲著しく漏水による冷水害を受け少し大雨でも降れば水路の氾濫による災害が随所に続出し苦勞の多い管理を繰り返していた。戦後の農業は経済の高度成長に伴い他産業との格差が益々増大する一方である。このような状況の中で農業の発展を計るには耕地の基盤整備が肝要であると痛感し旧野向村地区七集落旧荒土村地区十四集落の組合員五百四十九名が大同団結をし土地改良準備委員会を設立した。

漸く昭和四十五年六月三十日県営圃場整備事業区に採択になり、勝山北部土地改良区として発足をした。農業土木技術の粋を集めて工事を進めその過程に於ては幾多の困難に遭遇をしたが組合員一同

(裏) 昭和二十一年九月建之

荒土郷友会

平成六年七月三日

荒土町戦没者五十回忌

追悼法要記念

昭和二十一年…一九四六年。